

甘しょ畑における野ネズミの捕獲調査

三宅分場 浅沼二郎・鎌川 登

1. 目的

三宅島では近年野ネズミの異常発生が伝えられ、農家の関心も高く、ほ場内の生息密度を知ろうとする。

2. 調査期間

1971年8月14日～12月10日まで118日間、1972年8月21日～12月10日まで112日間の2回行った。

3. 調査面積

1971年 52.5

1972年 61.5

4. 調査方法

捕そ器（通称親子どりに誘食飼として甘しょの油揚げを附したもの）と薬剤を併用して捕獲数と薬餌の喫食状態を調査した。

5. 捕そ器数

1971年 8ヶ

1972年 20ヶ

6. 使用薬剤

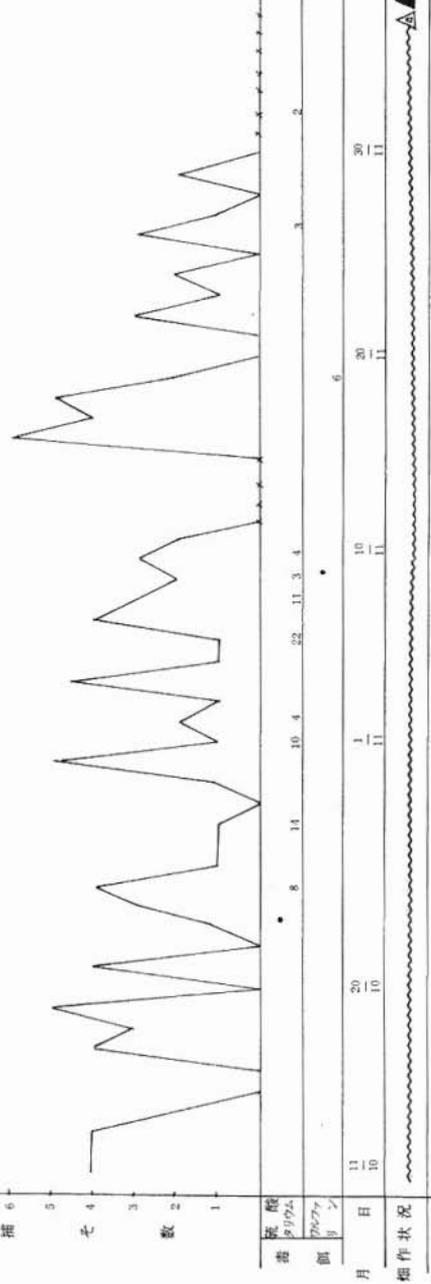
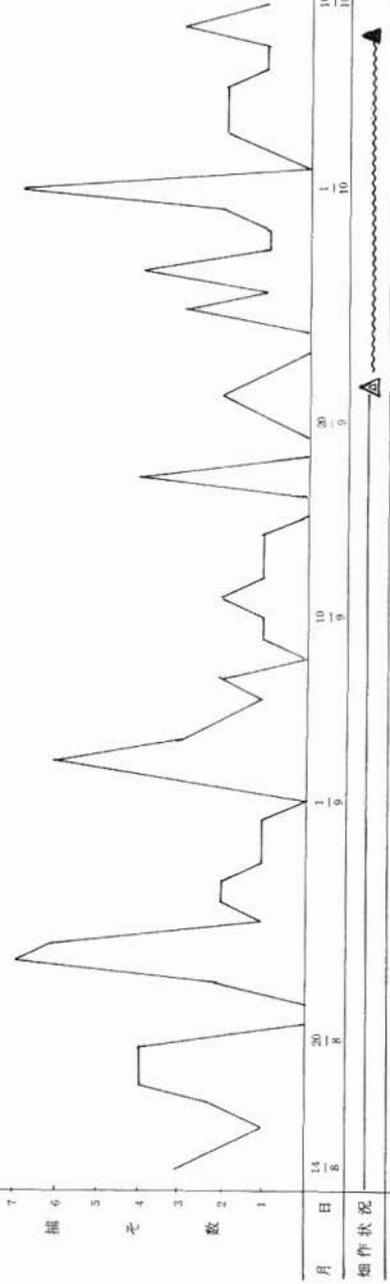
1971年は、10月23日より11月30日までの間、ワルファリン0.025%粉剤、硫酸タリウム0.3%固形剤を22ヶのベイトボックス内で与え、1972年は8月21日より12月10日までの間ベイトボックス28ヶに、硫酸タリウムを2種1%と0.3%の固形剤を与えた。

薬剤の効力試験については、両年ともとくに行なわなかった。

7. 調査結果

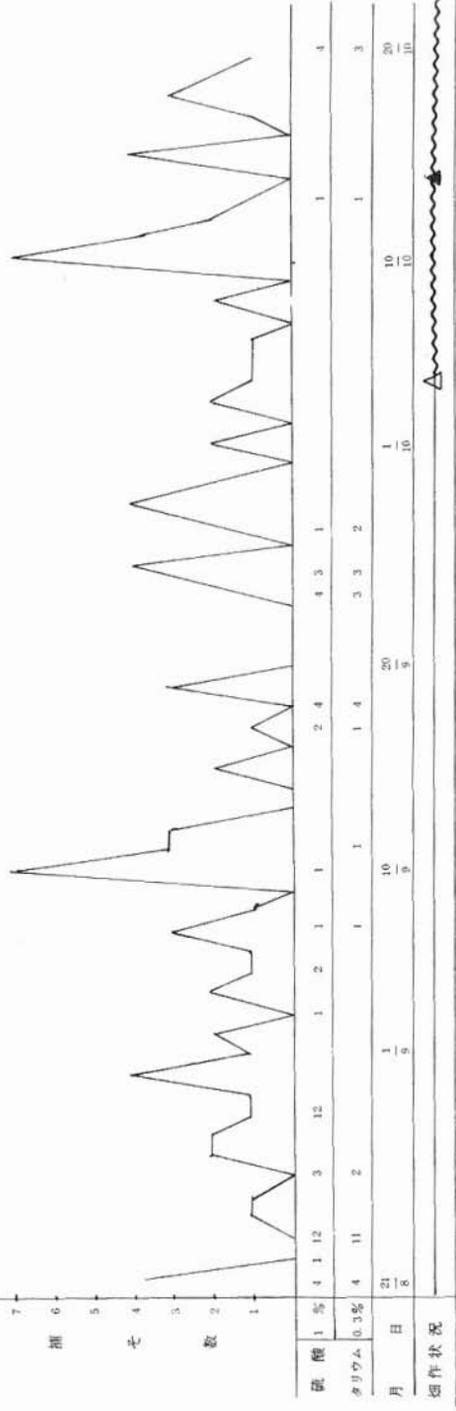
第1図、第2図のとおりである。

昭和46年

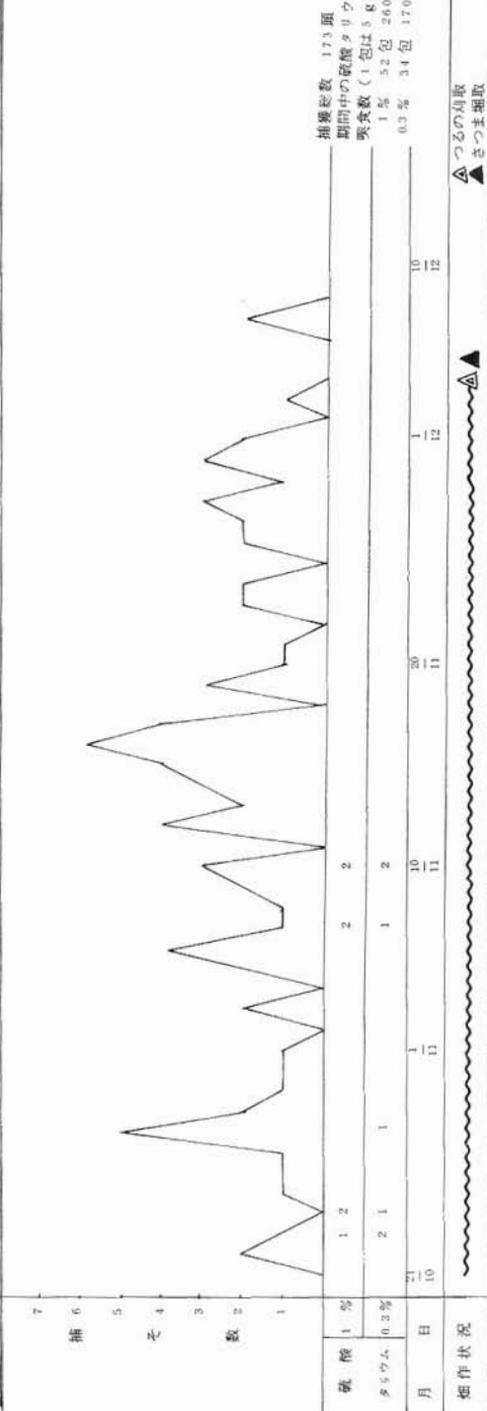


1. 砂糖タリウムは、ピスケット状を、大体4-5日程度ポッタスにワルファリンはディペクタタイプのものを2袋宛与えた。
2. 毒餌の喫食状況は、ベイトポッタス内の毒餌を補充したポッタス、即ち毒餌を喫食したポッタス数を示した。
3. 畑作状況 つるの刈取 さつま畑取

昭和47年



細作状況



細作状況

捕獲総数 173頭
 期間中の硫酸タリウム
 実英数 (1包は5R)
 1% 52包 260R
 0.3% 34包 170R

▲ つるの刈取
 ▲ さつま堀取